

道隆寺

多度津町にある道隆寺は仏教の真言宗のお寺で、四国八十八ヵ所霊場の第 77 番札所です。このお寺の歴史は 712 年に遡り、本堂まで続く参道沿いにずらりと並ぶ 255 体の青銅製の観音菩薩像で有名です。これらの像の中には、日本国内の他の有名寺院の本尊を表現したもののほか、交通安全祈願のためや、死産した子供たちの魂を鎮めるためなど、ある特定の目的に捧げられた像があります。同様に特筆すべきはこのお寺の本尊である薬師如来で、医療と治癒の仏として知られています。この薬師如来像は、江戸時代（1603 年～1867 年）の人物、京極左馬造（きょうごくさまのみやつこ）の物語にあるように、目に関する病気を治す力があると信じられています。盲目だった京極が道隆寺で祈願したところ、視力が回復したという言い伝えが残っています。この奇跡的な出来事に触発された彼は、医学、特に目に関する病気について勉強し、のちには身分の高い武将たちの専任医師となりました。京極の墓は道隆寺の潜徳院殿堂にあります。